

一般社団法人日本飛行連盟

当社は、航空再開前の昭和25年頃からその萌芽を見ており、在京の旧陸海軍航空関係者の若い有志が来たるべき航空再開に備えておりました。そして航空再開と同時に発足した旧おとり会にも参加していましたが、同会が民間出身者も含まれ異質の面もあったので、旧軍関係者を中心とした団体結成の動きとなって、昭和27年11月3日、鎌倉建長寺において「日本青年飛行連盟」として発足し、昭和28年2月19日には、運輸大臣より社団法人としての認可を頂戴しスタート致しました。1956年5月には前記の友好団体であるおとり会と合併し、名称を「日本飛行連盟」と改めました。当時は、航空再開後の民間の操縦士の不足を補うため、エアラインパイロットの養成を中心として行っており多数のパイロットを各社へ送って参りましたが、1961年ごろになりますと各航空会社でも自社養成が主体となって参りました。そこで当社はプロ養成からアマ養成へと全くの未経験者を対象とした「日本飛行クラブ」を主な事業へといたしました。1967年に至ると、所有機も18機を超え余りにも急速な需要の伸びに應えるには社団法人の枠では難しく、また業界との宥和も図る必要に迫られました。そのため運航部門を分離して日本フライングサービス(株)を設立、組織は当連盟、実運航は日本フライングサービス(株)と提携出来たため大きく発展いたしました。しかし1976年には同社の経営主権が変更となったため、当連盟との連携が打ち切りとなり、その後は新たに使用事業各社と提携し今日に至っております。なお、1963年に、日本赤十字社の要請により赤十字飛行隊を当社の役員職員をもって結成、現在では、支隊もほぼ全国ネットを完成し、飛行隊本部事務局としての役割を担っております。飛行クラブ誕生以来数千人に上る操縦士の養成を行いました結果、自家用機を所有する免許取得者も急速に伸び、事業会社の所有機数を上回るに至りました。この様な状況から当社の役割は、航空法遵守の呼びかけ、安全運航の指導、航空に関する知識の普及、技術の向上を促進させ、民間航空の発展に寄与すると共に、航空機を使用して社会の福祉に貢献することを主体として今後とも活動して参ります。なお、平成25年4月1日に公益社団法人から一般社団法人へ移行し、諸情勢に対応できる充実した新たな組織運営を目指して参りますので、変わらぬご支援ご協力のほど御願ひ申し上げます。

名 称	一般社団法人 日本飛行連盟
住 所	〒105-0004東京都港区新橋1-18-1 航空会館
設 立	昭和28年2月19日
目 的	航空に関する知識の普及及び技術の向上を促進し、以て民間航空の発展に寄与するとともに、航空機を使用して社会の福祉に貢献することを目的とする。(定款第2条)
役 員	理事長 1名、理事 5名、監事 1名、 <u>合計7名</u> (平成31年4月1日現在)
運 航 所	・大利根・三保・調布 (調布は※に運航委託)
訓練提携先	アイバックスアビエーション株式会社※
会 員	380名 (飛行クラブ員、赤十字飛行隊員、団体員、※サポート員含めず)
赤十字飛行隊	38支隊2分隊 所属航空機 100機
機 関 誌	「AERONCA」隔月発行

【 占用飛行場・クラブルームのご案内 】

- 本 部 東京都港区新橋1-18-1 航空会館 ☎03-6268-8755
- 占用管理飛行場
- 大利根場外離着陸場 茨城県稲敷郡河内町大徳鍋子新田
- 三保場外離着陸場 静岡県静岡市清水三保字池

大利根 Ohtone AD

R/W 600×20m 面積 84,265㎡
 130.7MHz
 opr 平日・土日祝 09:00-日没
 JMGC Tel0297-84-3528
 飛行場携帯 090-2209-2392
 (飛行場窓口：日本モーターグライダークラブ
 JMGC八月・火は事務局休み)
 飛行機、ヘリコプター、モーターグライダー
 様々な機種が集まります。飛行場クラブ
 ハウスへお越し下さい。

要・場外申請、航空法79条申請
 (東京航空局/羽田)

三保 Miho AD

R/W 546×22 面積38,672㎡
 130.775MHz
 opr 平日・土日祝 09:00-日没
 Tel0543-34-2083/東京本部に転送されます

連盟会員の訓練に使用しています。
 県警ヘリ、防災ヘリなども使用。短い滑走路に強い横風、馴れていないと難しい飛行場です。

要・場外申請、航空法79条申請
 (東京航空局/羽田)